

小学館

常用国語辞典

宮地幸一編

編者のことば

社会生活の多様化にともない、生滅流転する言語現象の種々相には、まことに目を見はることの多い昨今であります。同じ社会に息づきなから、いわゆる流行語といわれるものの幾つかに接するとき、世代間の言葉の断層がいかに深いものであるかをしみじみ感じます。また、政治経済・科学技術・社会時事などの方面において、新しい意味の盛られた言葉が次々と誕生して、その多彩な群動には時に戸惑いすら覚えます。これらの言葉を適宜取捨選択してその意味を簡明的確にとらえ、伝統的な言語表現と相まって、身についた言葉として現代社会に生きる人々の言語生活を豊かにつちからう教養の資として役立つものに仕立てあげたい、これが本書編集にあたってもっとも心をくだいた点であります。

本書は、社会ではたらく人々のために、不可欠と思われる約五万五千語を精選して、実際の業務・日常の生活に役立つように簡にして要を得る説明を加えたものでありますが、実生活で当面する文章表記の標準的な手引きとしても活用のできるように幾つかの配慮をいたしました。常用漢字表の制定は現代の国語表記に基本的な目安をもたらしました、これに習熟しこれを駆使して、こ

れが実生活に定着するまでには、今後なお時日を要するものと思われまゝ。本書では、「常用漢字表」「現代かなづかい」「送り仮名の付け方」にのっとりた表記のしかたを全項目にわたって明解・端的に示しました。巻末付録の『常用漢字小辞典』と合わせて御使用いただければ、社会の多方面における業務に十二分に役立つものであると自負しております。

なお、わずらわしい凡例・形式はつとめて避け、読みやすく使いやすい新形式の国語辞典にまとめ上げましたのも特色の一つになろうかと存じます。本書が多くの利用者の御協力を得て、さらに内容を充実させていくことができますように、御利用くださるみなさまがたの厳しく温かい御教示を心からお願い申しあげます。

昭和五十八年二月

第一版序文

この小学館「常用国語辞典」は、おもな利用者をヒンネスマン、家庭の主婦および、もうすぐ社会人となる学生のみなさんと考え、多忙な実生活に役立つ、機能的で使いやすい辞典として、次のような特色を備えています。

- 1 形式は簡単に、読みやすく使いやすい内容であること。
- 2 常用漢字表・現代かなづかい・送り仮名の付け方に適合した表記がすぐわかること。
- 3 類義語・対義語を多く示して、日常文書の作成の参考となること。
- 4 語の歴史的背景・成立の説明、故事・ことわざの解説をくわしくしたこと。
- 5 新語・時事用語を多く収めたこと。
- 6 常用漢字表をくわしく解説した『常用漢字小辞典』を巻末付録にまとめ、さらに音訓総索引を付けたこと。
- 7 「常用漢字」「人名用漢字」の全部について、ペン字の手本（楷書と行書）を示したこと。

これらは、この辞典の事始めから校了に至るまで長い年月にわたって編者と苦勞を共にせられた、多くのかたがたのそれぞれの立場からの、御協力の賜物であります。編集の過程でお力添えいただいたかたがたのお名前を記し、深くお礼を申しあげます。（敬称略）

〈立項・執筆・校閲〉 高田芳夫・鈴木正彦・山口雄輔・

芳沢鶴彦・小田切 隆・宮腰 賢・田沢恭二・中村 栄

〈ペン字手本〉 竹軒 長野秀章

〈図版作成〉 鈴木久雄・西川勝也・上山ひろ志・真英社（図版編集）

〈編集・校正〉 一ノ瀬美江・山根敬生

〈装丁〉 坂野 豊

なお、本書は編者と小学館辞典編集部との緊密な協力によって成り立ったものであることを特に記しておきます。

昭和五十八年二月

編 者 宮 地 幸 一

東京学芸大学名誉教授
帝京大学文学部教授
文学博士 専攻国語学

この辞典を使う人のために

「常用国語辞典」は、社会人としての実務に必要な項目を現代生活のさまざまな分野から五万五千を精選し、辞書としての使命に沿った簡潔な説明を付けるとともに、常用漢字表（昭和五十六年内閣告示）、現代かなづかい（昭和二十一年内閣告示）、送り仮名の付け方（昭和四十八年内閣告示）に準拠した適切な標準的表記を示すことによつて、ビジネスと実生活に最大限に活用のできるよう配慮し編集した辞典であります。ここでは、本書の基本的構成と目的とに応じた使い方を解説しました。この辞書を十分に活用するためにお読みください。

一、この辞典から得られる知識

おもな事柄をあげます。

- 1 現代仮名づかい。
- 2 漢字の当て方（常用漢字表当該字はゴシック体で示した）。
- 3 送り仮名の付け方。
- 4 語の意味と用法。

二、見出し語の示し方

- 5 同じ意味を持つ語、類似した用い方をされる語。
- 6 反対の意味を持つ語、逆の用い方をされる語。
- 7 語源・語の歴史・語の背景など。
- 8 外来語の原語のつづり。
- 9 社会人としての常識であるべき、いろいろな知識。
- 10 常用漢字表の読み方・意味・用法と、人名用漢字の用法。
また、それぞれのペン字の手本（楷書・行書）。―巻末付録『常用漢字小辞典』を参照のこと。

- 1 原則として平仮名で示し、現代仮名づかいによつた。

はる【春】

あれの【荒れ野】

あき【秋】

うったえる【訴える】

- 2 外来語は片仮名で示し、表記は「外来語の表記」（昭和二十九年国語審議会報告）および、現在もとも一般的と思われる表記によつた。なお、複合語は、その成り立ちを切れ目で示した。

アイディア〈idea〉

コンピューター〈computer〉

マスメディア〈mass media〉

3 和語・漢語と外来語とが結合して出来た語は、平仮名と片仮名との組み合わせで示した。

ツベルクリンはんのう【ツベルクリン反応】
なまワクチン【生ワクチン】

4 慣用句・ことわざ・語が幾つか結びついて出来た連語の類は、全形を示した。

願わがつても無い事こと — 背水の陣しん

5 基本となる語に、さらに他の語が付いて出来た複合語や連語は、基本の部分を一で示した。

あんちゅう【暗中】

— 飛躍やう

たつとり【立つ鳥】

— 跡あとを濁にごさず

はいぐん【敗軍】

— の将しょう兵へいを語かたらず

三、見出し語の並べ方

1 見出し語は五十音順に配列した。

2 五十音順で順序の決まらないものは、次の約束による。

① 清音・濁音・半濁音の順にする。

はんや【半夜】
ばんや【番屋】

ホール〈hall〉
ボール〈ball〉
ポール〈pole〉

② 促音おん「っ」は、普通の大さきの仮名で書く直音おんの前に置く。

さつき【殺気】 — しっけ【湿気】
さつき【五月・皐月】 — しっけ【仕付け・髹】

③ 拗音おん「ゃ」「ゅ」「ょ」は、直音の前に置く。

きよう【今日】 — きゅう【灸】
きよう【紀要】 — きゅう【紀要】

④ 長音符号「ー」は、その発音がア・イ・ウ・エ・オのいずれかであると見て、その位置に置く。

エラー〈error〉
えらい【偉い・豪い】

3 見出し語の形が同じ仮名で続く場合は、次の約束による。

① 見出し語に当てる漢字の、第一字（第一字が同じなら第二字）の字画数の少ない順にする。

あつい【厚い】 — かこう【河口】

あつい【暑い】 — かこう【河港】

あつい【熱い】 — かこう【歌稿】

- ② 漢字の画数が同じものは康熙字典による。
- ③ 和語・漢語・外来語の順とする。

四、語の書き表し方(表記欄)

見出し語に当てられる慣用的な表記のしかたを【】の中に示した。表記形が幾つかある場合には、原則として一般的なものから順に並べて示した。ただし、見出しの仮名と同じに表記される語の場合は省いてある。

- 1 「常用漢字表」の音訓が当たるものはゴシック活字で示し、常用漢字表外の字・常用漢字表に掲げられた音訓が当たらないものについては明朝体で示した。

かこく【過酷・苛酷】

きようせい【共生・共棲】

しめかざり【注連飾り・標飾り】

とてつ【途轍】もない

- 2 「現代かなづかい」「送り仮名の付け方」を参考にして、表記欄に送り仮名を示した。送り仮名の付け方は、まず本則によることとし、省いても省かなくてもよいとされているもの(許容)については、原則として省かないで示した。なお、慣用として送り仮名を省いているもの(例外)について

は省いた形で示した。

あみあげくつ【編上靴】

うけとり【受取・請取】

あみぼう【編み棒】

勘定かんじょう

うけつけ【受付】

うけながす【受け流す】

- 3 外来語については、見出し語の下にへ／＼で原語のつづりを示した。また、外来語その他、ローマ字で書くことが普通のものは、その形をへ／＼に示し、省略しないものとの形を「」で次に注記した。

エートス〈ギ ethos〉

オーケストラ〈orchestra〉

オペック〈OPEC〉〔Organization of Petroleum Exporting

Countries〕

キロメートル〈フ kilometre〉

コッヘル〈ド Kocher〉

なお、原語のつづりの頭に付けた小文字のギ・フ・ドなどは、ギリシア語・フランス語・ドイツ語などの意味であり、小文字を付けていないものは英語である。

○外国語の略号は、次の通り。

イ イタリア語 ギ ギリシア語
フ フランス語 ラ ラテン語

五、語の説明

ド ドイツ語 ポ ポルトガル語
 ロ ロシア語 ス スペイン語
 ア アメリカ英語 オ オランダ語

○中国語・朝鮮語・梵語ほんから日本語に入ってきたものについて「中国語から」「朝鮮語から」「梵語から」の形で、それぞれ注記した。

- 1 語の説明は、常用漢字表、現代かなづかいによって、簡潔・正確におこなった。常用漢字表外の漢字や読みにくい漢字にはルビを付して読みを示した。
- 2 一語に幾つかの意味のある場合には、基本的な意味を①とし、派生した意味を順に②③……として説明した。
- 3 語源や原義、語の変遷、故事・ことわざの由来・出典などで、特に補注の必要なものは、語の説明の最初に「」で解説した。

しゃくねつ【灼熱】「灼」は、焼ける意

けいめい【鷄鳴】①にわたりの鳴き声。②一番どりの鳴く午前二時ごろ。③夜明け。早朝。

いくとう【狗盗】「中国で、齊せいの孟嘗君もうしようが秦しんの国を脱

出する時に働いた、犬のまねをして倉の中の毛皮を盗み出した者、鷄の鳴き声をまねして関所の門をあけさせた者の意から①いやしくて小才のきく者。②……

まっさつ【抹殺】「殺」は、強めの語

- 4 意味の理解の参考のために、類の記号で、同じような意味を持つ語・類似した使い方をされる語を、同の記号で、反対の意味を持つ語・逆の使い方をされる語を示した。
- 5 説明の関連する項目を↓で示した。
- 6 同じ意味を持つ語で、二通りの語形がある場合には、双方を見出し語とし、↓の記号でその一方に説明をまとめた。
- 7 文例・用例・語例は「」で示した。用例中の、見出し語に当たる部分は―で表し、活用語で見出し語の形とちがう活用形の使われている場合には全形を示した。

六、付録

付録には『常用漢字小辞典』と、その検索のための「常用漢字表 音訓総索引」および、「人名用漢字便覧」・「方位時刻・十干十二支」・「物の数え方」などをまとめた。「月の異名」(表見返し)・日本の「旧国名地図」(後見返し)と合わせて活用していただきたい。

あ

ああ【嗚呼・噫・嗟】感動して出ることば。「―楽しい」
 アークとう【アーケ灯】〈arc〉二本の炭素棒の間に、
 放電光をだす電灯。圓弧光灯えんこくとう。

アーケード〈arcade〉①丸屋根のある通路。②歩道
 に屋根のついた商店街。

アース〈earth〉①大地。②電気器具の接地線。

アーチ〈arch〉①上方を弓形につくり、その下を空間
 にした建築物。②すぎ・ひのきなどの葉でつつんだ門。緑
 門。③野球で、本塁打。「―を描く」

アーティスト〈artist〉芸術家。

アーティフィシアル〈artificial〉人工的。因ナチュ
 アート〈art〉芸術。美術。「―フル」。

―シアター〈art theater〉芸術的な映画を上映す
 る劇場。

―ディレクター〈art director〉①美術監督。②
 広告代理店などで広告制作の監督者。

アート紙【アート紙】〈art〉表面がなめらかで、つやのあ
 る印刷用紙。

アームチェア〈armchair〉ひじかけいす。

アーメン〈amen〉「そうあってほしい」の意【キリスト
 教で祈りのあとにいうことば】。

アーモンド〈almond〉バラ科の落葉果樹。実は洋
 菓子などに使う。からもも。

アール〈are〉土地の面積の単位。一アールは百平方

メートル(約三〇・二五坪)。記号 a

アールアンドディー〈R&D〉[Research and
 Development] 研究と開発。企業内での製品の技
 術的研究開発のこと。企業発展の有力な要素。

アールエイチいんし【Rh因子】「Rhは抗血清を
 得るのに使ったアカゲザル(Rhesus monkey)の頭文
 字」血液中の抗体物質の一つ。血液中にRh因子
 のある場合をRhプラス型、ない場合をRhマイナス型
 という。輸血などでRhマイナスの人がRhプラスの血
 液を繰り返し輸血されるとショックを起こして死亡する
 危険がある。

アールエイチしきけつえきがた【Rh式血液型】

血液中にRh因子があるかどうかで分類する血液型。
 アーンドラン〈earned run〉野球で、野手のエラーで
 なく投手の責任でとられた点。自責点。

あい【愛】①かわいがり、たいせつに思うこと・気持ち。「親
 の―(親愛情おやこあい)」②異性をいとおしく思うこと・気持
 ち。類恋愛こひ。③物事をたいせつに思うこと・気持ち。

あい【藍】①タデ科の一年草。葉や茎から染料をとる。
 たであい。また、それからつくった染料。「青は―より出
 て―より青し」②こい青色。類靑藍あいらい。

あいあい【藹藹】①なごやかなようす。「和気―」②草
 木のしげるようす。「―たる自然林」

あいあいがさ【相相傘・相合傘】男女がなかよく一本
 のかさをさすこと。「ド」。

アイアン〈iron〉頭部が鉄製のゴルフクラブ。因ワッ
 あいいく【愛育】かわいがって、大事にそだてること。類

慈育じいく・傳育でんいく・撫育ぶいく。

あいいれない【相容れない】たがいになじみがない。

あいいん【愛飲】このんでいつも飲むこと。

あいいん【合印】二つ以上の書類を照合したしるし
 に押す印。あいじるし。類合印あひいん・割印わりいん。

あいうち【相打ち・相撃ち】両方が、同時に打ちあうこ
 と。[Fund] 国際通貨基金。

アイエムエフ・I M F [International Monetary
 Organization] 国際労働機構。

あいえん【哀婉】あわれで美しいようす。「―な姿」

あいえんか【愛煙家】タバコの好きな人。

あいえんきえん【合縁奇縁】人には気心の合う合わない
 があり、縁とはふしぎであるということ。

あいおい【相生い】①一つの根から、二本の幹が育つこ
 と。「―の松」②夫婦がともに長生きをすること。相老
 い。類偕老かいらう・共白髪きやくは。

アイオーシー・I O C [International Olympic
 Committee] 国際オリンピック委員会。

あいか【哀歌】かなしんでうたう歌。かなしみをうたった
 歌。エレジー。類哀詩あいか・悲歌ひが。

あいかぎ【合鍵】その錠かぎに合う別のかぎ。

あいかた【合方】①能のはやしをうけもつ人。類囃子方
はやし。②歌舞伎かぶきで、せりふの間に入る鳴りもの。③

歌い手に対して三味線をひく人。

あいかた【相方】①相手方。②「敵娼」とも書く遊
 客の相手の遊女。

あ

あいかん【哀感】ものがなしい感じ。 類 哀愁(あいう)・哀情(あいきやう)・悲哀(あひ)・悲愁(ひしゅう)。

あいかん【哀歎】かなしみと喜び。 類 哀楽(あいく)・悲喜(ひき)。

あいがん【哀願】同情心にうったえたのむこと。 類 哀訴(あいきん)・嘆願(たんがん)。

あいがん【愛玩】かわいがって、いつも手にすること。

あいき【愛機】愛用の飛行機・カメラなど。

あいき【合着・間着】春・秋に着る衣服。 類 合服(あいく)。

あいきどう【合気道】柔術の一流派。 当て身技・關節技を主とする。 合気術。

あいきやく【相客】①同室にとまりあわせた客。 ②同席の客。

アイキューへIQ【intelligence quotient】知能指数。

あいきよう【愛郷】故郷を愛すること。「一心」

あいきよう【愛嬌・愛敬】①かわいらしいこと。②こつけないこと。③おせじなどのうまいこと。 類 愛想(あいしやう)。

あいきようげん【間狂言】能の幕あいに演じる狂言。

あいきん【愛吟】このんで口ずさむこと。 類 愛唱(あいしやう)。

あいくち【合口・匕首】つばのない短刀。 類 九寸五分短刀(くすん・たんとう)・匕首(しやうび)。

恩顧(おんこ)・後援(こうえん)。

あいくち【合口】①物と物との合わせめ。②おたがい

に話がよく合うこと。また、そのような間柄。「一」が悪

い」 類 相性(さうしやう)。

あいくち【愛犬】かわいがっている犬。

あいくち【相子】勝ち負けのないこと。引き分け。

あいくち【愛顧】かわいがって引ききたること。ひいき。 類

恩顧(おんこ)・後援(こうえん)。

あいくち【相基】同じ程度のうでまえの基。

あいくち【愛護】かわいがり、たいせつにすること。

あいくち【愛好】愛しこのむこと。「一家」

あいくち【愛校心】自分の学校を愛すること。

あいくち【愛国】自分の国を愛すること。「一の念」

あいくち【合言葉】①前もってきめた、あいずのことば。②標語。モットー。

あいきさい【愛妻】愛する妻。いとし妻。また、妻をだ

いじにすること。「一家」

あいきさつ【挨拶】①人に会ったり、別れるときにする、儀

礼や、ことば・しぐさ。 類 会釈(かいしやく)。

あいきし【哀史】かなしい物語。 類 悲史(ひし)・悲話(ひわ)。

あいきし【哀詩】かなしいうた。 類 哀歌(あいき)・悲歌(ひか)。

あいきし【愛児】親がかわいがって、たいせつにしている子

いとし。 類 愛子(あいし)。

アイシーへIC【integrated circuit】集積回路。

アイシービーエムへICBM【intercontinental ballistic missile】大陸間弾道弾。

あいきやく【愛着】心をひかれて、はなれられないこと。あ

いやく。 類 愛執(あいしやく)・愛染(あいせん)・執着(しやく)。

アイシャドーへeye shadow【まぶたにかげをつける化粧料】。

あいきしゅう【哀愁】うらがなしい思い。ペーソス。 類 哀感(あいき)・哀切(あいき)・悲哀(あひ)・悲愁(ひしゅう)・悲傷(ひしやう)。

あいきしゅう【愛執】愛するものに心をひかれて、はなれ

れないこと。 類 愛着(あいしやく)・ちやく・執心(ししん)・執着(しやく)。

あいきしゅう【愛書】①本をだいにすること。「一家」②

愛読する本。

あいきしゅう【相性・合性】おたがいの性格がうまくあ

うこと。 類 合口(あいくち)。

あいきしゅう【哀傷】かなしみなげくこと。 類 哀惜(あいき)・哀

切(あいき)・哀悼(あいき)。

あいきしゅう【愛称】親しみをこめた呼び名。 類 渾名(あだな)。

あいきしゅう【愛唱・愛誦】このんで口ずさんたり、歌った

りすること。 類 愛吟(あいしん)。

あいきしゅう【哀情】ものがなしい気持ち。 類 哀感(あいき)。

あいきしゅう【愛情】かわいという気持ち。また、異性を

したう心。

あいきじよう【愛嬢】かわいがっている娘。まなむすめ。 類

あいきじりし【合印】①もののつきめにつけるしるし。②

敵・味方などを区別するしるし。③合印(あいくち)。

あいきじん【愛人】愛している異性。こいびと。情人。

アイスへice【氷】。

あいきじん【愛人】愛している異性。こいびと。情人。

アイスへice【氷】。

あいきじん【愛人】愛している異性。こいびと。情人。

アイスへice【氷】。

あいきじん【愛人】愛している異性。こいびと。情人。

アイスへice【氷】。

あいきじん【愛人】愛している異性。こいびと。情人。

アイスへice【氷】。

あいきじん【愛人】愛している異性。こいびと。情人。

あいせき【愛惜】あいせき ものをたいせつにし、手放したりすることをおしむこと。

あいせつ【哀切】あいせつ かなしくせつないこと。類 哀愁あいしゅう・哀傷あいしょう・断腸だんちやう。

あいぜつ【哀絶】あいぜつ 非常に悲しいこと。

あいせん【相先】あいせん 碁・将棋などで、かわるがわる先手となること。類 互先たがひせん。愛着あいじゃく。

あいぜん【愛染】あいぜん 心をひかれて、はなれられないこと。類 アイゼン「Steigeseenの略」すべり止めのために、登山靴の底につける金具。

あいそ【哀訴】あいそ ↓あいがん(哀願)。

あいそ【愛想】あいそ ①人あたりのよいこと。類 愛嬌あいけう・世辞せじ。②好意。愛情。「―をつかさ」③「お―をつけ」料理屋の勘定。

―尽くさかし 歩いてを見かぎること。

―笑わららい つくりわらい。

―を尽くさかす いやになって、見切りをつける。

あいぞう【愛憎】あいぞう 愛と憎しみ。

あいぞう【愛蔵】あいぞう たいせつにしまうこと。類 秘蔵ひぞう。

あいそく【愛息】あいそく かわいい息子。類 愛嬢あいじやう。

アイソトープ【isotope】アイソトープ 同位元素。

あいだ【間】あいだ ①物と物との中間。類 間隔かんかく。②ひとつながりの時間。類 期間きかん。③きりめの時間。類 合間がま。

④あいだがら。類 関係かんけい。

―柄がら 人と人との関係。「師弟の―」

あいたい【相對】あいたい ①さしむかい。②対等。

あいたしゅぎ【愛他主義】あいたしゅぎ 他人を自分と同様にたいせつにする主義。類 利他主義りたしゅぎ。類 利己主義りじしゅぎ。

あいぢやく【愛着】あいぢやく ↓あいじゃく(愛着)。「子。

あいぢやう【哀調】あいぢやう 詩歌・音楽などのものがなしい調。

あいぢやう【愛重】あいぢやう かわいがりたいせつに思うこと。

あいぢやうしゅかん【愛鳥週間】あいぢやうしゅかん 野鳥をかわいがる運動がおこなわれる、五月十日からの一週間。バードウィーク。

あいつ【彼奴】あいつ あのやろう。あやつ。

あいつち【相槌】あいつち ①かじ屋のむこううち。②あいてに調子を合わせて答えること。「―をうつ」

あいて【相手】あいて ①事を共におこなう人。類 相手方かたがひ・相棒さばう。②相對する人。敵。「―に取って不足はない」

アイディア【idea】アイディア ①觀念。イデー。②思いつき。類 工夫くふう・創意そうち・着想そちやう・妙案めうあん。

あいでし【相弟子】あいでし 同じ先生について、学ぶ仲間。類 同門どうもん。

あいつう【哀悼】あいつう 人の死をかなしみいたむこと。「―の意」類 哀傷あいしょう・弔意ちやうい・追悼ついとう。

あいどく【愛読】あいどく このんで読むこと。「―の書」

アイドホール【idophor】アイドホール テレビ画面投影装置。

アイドル【idol】アイドル 人気者。あこがれのまど。

あいなかばする【相半ばする】あいなかばする 半分ずつである。五分五分ごぶんごぶんである。「利害―」

あいなめ【鮎並・鮎魚女】あいなめ アイヌ科の魚。浅海の海草の間にすむ。食用。あぶらめ。

あいにく【生憎】あいにく 運わるく。おりあしく。「―不在」

あいのて【合の手・間の手】あいのて ①邦楽・民謡で、歌と歌の間の三味線だけの間奏。②調子づけるための、かけ声・手びょうし。「―を入れる」

あいのり【相乗り】あいのり いっしょにのること。類 同乗どうじやう。

あいば【愛馬】あいば かわいがっている馬。

あいはん【合判】あいはん ①合印あひいん。②連帯でおす印。

アイバンク【eye bank】アイバンク 角膜移植のための眼球提供者の登録・斡旋などを行う機関。目の銀行。

あいびき【逢引き・蟻曳】あいびき 男女がそとと会うこと。デート。類 密会みつかい。

あいびよう【愛猫】あいびよう かわいがっている、ねこ。

あいぶ【愛撫】あいぶ ①やさしくなでること。「赤ん坊を―する」②いつくしみ、かわいがること。

あいふく【合服・間服】あいふく ↓あいぎ(合着)。「りふ。

あいふだ【合い札】あいふだ 品物をあずかった証拠に渡す札。わあいべつ【哀別】わあいべつ わかれをかなしむこと。また、かなしいわかれ。類 惜別しやくべつ。

あいべつりく【愛別離苦】あいべつりく 仏教で、八苦の一つ。心ならずも愛する人とわかれる苦しみ。↓八苦はく。

あいべや【相部屋】あいべや いっしょに一つの部屋にとまること。類 同室どうしつ。

あいほ【愛慕】あいほ 愛し、したうこと。類 思慕しほ・恋慕れんぼ。

あいほう【相棒】あいほう ①かご・もっこなどをかつぐ相手。②仲間。パートナー。類 相手かたがひ・同士どうし。

アイボリー【ivory】アイボリー ①ぞうげ。②ぞうげ色。

あいま【合間】あいま とぎれたあいだ。ひま。

あいまい【曖昧】あいまい ①あやふや。類 不明瞭めいりやう。

あいまい【曖昧】あいまい ①あやふや。類 不明瞭めいりやう。

確^{たしか}い。②いかがわしいようす。

あいまって【相俟^{あひまち}って】いつしよになつて。

あゐたがい【相身互^{あひみだう}い】「相身互い身」の略」たがいに同情し助け合うこと。「武士は――」

アイモ〈Eyemo〉三五ミリの携帯撮影機。商標名。

あいやく【相役^{あひやく}】同じ役目にある人。類相番^{あひばん}・同役^{どうやく}・同僚^{どうりょう}。

あいやど【相宿^{あひやど}】同じ宿屋にとまること。類同宿^{どうしゆく}。

あいやう【愛用^{あいやう}】このんでつかうこと。類常用^{どうじょうよう}。

あいやく【愛欲・愛慾^{あいやく}】異性へのつよい愛・欲望。

あいやつ【相四つ^{あいやつ}】相撲で、双方の得意とする差し手が同じであること。類喧嘩^{けんか}四^よけんかつ。

あいらく【哀楽^{あいらく}】かなしみとたのしみ。類哀歓^{あいかん}・苦楽^{くらく}・悲喜^{ひき}。

あいらしい【愛らしい】かわいらしい。

あいにん【哀憐^{あいにん}】あわれみの情。類憐憫^{れんみん}・惻隱^{そくいん}。

あいろ【隘路^{あいろ}】①せまくて、けわしい道。②さまたげ。さしむり。類支障^{ししょう}・障害^{しょうがい}。

アイロニー〈irony〉ひにく。反語。風刺。

アイロン〈iron〉①熱を加えて衣類のしわをのばし、形をととのえるのに使う、底の平らな金属性の器具。類火熨斗^{くわいど}。②髪をちぢらせる、こて。

類遭遇^{ぐうざう}・逢着^{ほうちやく}。

アウタルキー〈Antarkie〉自給自足経済。

アウト〈out〉①テニスなどで、球が線外に出ること。類イン。②野球で打者や走者が失格すること。類セーフ。

カーブ〈out curve〉野球で、打者の近くから急に外側へ曲がる球。類インカーブ。

コース〈out course〉〔和製英語〕①野球で、ホームプレートの外角を通る球道。②陸上競技で、トラックの中央より外側のコース。類インコース。

コーナー〈out corner〉野球で、ホームプレートの、打者に遠いほうのがわ。アウトサイド。外角^{がく}。類インコーナー。

サイダー〈outsider〉①同業組合に入らない企業。②仲間以外の批判者。局外者。

サイド〈outside〉外側。外角。類インサイド。

ブット〈output〉電子計算機が処理して打ち出す結果。類インプット。

ライン〈outline〉輪郭^{りんかく}。物事のだいたい。

ロー〈outlaw〉無法者。

アウフヘーベン〈Aufheben〉正・反二つの概念をより高い概念に統一すること。類止揚^{しやう}・揚棄^{ようき}。

あうん【阿訢^{あうん}】①はく息、すう息の呼吸。「一の呼吸」②寺院の山門にある仁王^{におう}や、こま犬などの一対。

あえか 美しくかわいいうす。「一な女性」

あえく【喘ぐ^{あえく}】苦しうに息をきらす。「急坂に――」

あえない【敢え無い】あつけない。「一最期^{さいご}」

あえもの【和え物^{わえもの}】野菜・魚・貝に、みそ・ごま・酢などをまぜ合わせた料理。

あえる【和える・壺える^{わえる}】まぜ合わせる。また、食べ物にみそ・ごま・酢などをまぜ合わせる。

あえん【亜鉛^{あえん}】青白色でもろい金属。元素記号Zn。

あお【青^{あお}】①三原色の一つ。空の色。②緑色。

―はあい【藍^{あい}よりい】〔出〕でてあい【藍^{あゐ}より青^{あゐ}し】「中国の書「荀子^{じゆん}」から」先生より弟子がえらくなることのとえ。類出藍^{しゆらん}の誉^{ほまれ}。

あおあお【青青^{あおあお}】いちめんに青いうす。「―とした水田」類蒼然^{そうぜん}・蒼蒼^{そうそう}。

あおあらし【青嵐^{あおあらし}】初夏、青葉を吹きおす風。せいらあおい【葵^{あおい}】アオイ科の植物の総称。別科のふたばあおいは徳川家の紋章。

あおい【青い・蒼い^{あおい}】①青色である。②顔色がわるい。

③人格・技芸・学問などが、未熟である。

あおいきといき【青息吐息^{あおいきといき}】苦しんでいるようす。

あおいまつり【葵祭^{あおいまつり}】京都賀茂神社の祭り。いまは五月十五日におこなわれる。

あおいろしんこく【青色申告^{あおいろしんこく}】法人税・所得税の申告制度の一種。青色の申告用紙を用いる。

あおうなばら【青海原^{あおうなばら}】いちめんに青々とした海。類大海原^{うなばら}。

あおうみがめ【青海亀^{あおうみがめ}】熱帯の海にすむ、ウミガメ科の大きなうみがめ。正覚坊^{しょうがく}。

あおかひ【青黴^{あおかひ}】もちなどにできる青みをおびたかび。

あおき【青木】①生きている木。図枯れ木。②常緑樹。③赤い実のなる、ミズキ科の常緑低木。庭木用。

あおきり【青桐】樹皮が緑色の、アオギリ科の落葉高木。庭木や街路樹にする。図梧桐。

あおく【仰ぐ】①上を向く。「天を」②うやまう。「師と」③請う。「指示を」

あおく【扇ぐ・煽ぐ】風をおこす。あおる。

あおくさ【青草】①春の青々とした草。②よもぎ。

あおくさい【青臭い】①青草のようなおいがする。②未熟である。「議論」

あおき【石蓴】緑色の海藻。主に家畜の飼料用。

あおさかな【青魚】皮が青白色のさかな。あじ・さばなど。光り魚。

あおさめる【青褪める】顔色が青白くなる。

あおじゃしん【青写真】①設計図などを複写した一種の写真。②将来の計画。

あおじろい【青白い・蒼白い】青みがかった白い。血のけがない。

あおすじ【青筋】①青色の筋。②皮膚の上から見える一線を立てる。ひどくおこる。「静脈」

あおぞら【青空】①晴れた空。図青天井。蒼穹。蒼天。蒼天。碧空。

あおだいしょう【青大将】ナミヘビ科の暗緑色の大型のへび。無毒。日本の原産で、全国に分布。

あおたがい【青田買い】①稲がみのらないうちに買う約束をすること。②①より転じて「学生の卒業を待たずに会社などで早く採用を内定すること。あおたがり」

あおだけ【青竹】①幹の青い竹。②笛の異称。

あおだたみ【青畳】①あたらしいたたみ。②波の静かな海面、青々とした野原などのたとえ。

あおてんじょう【青天井】青い空。図青空。

あおな【青菜】青々した菜。

―に塩【おひどくしおれて】いるようす。

あおにさい【青二才】未熟な若者をいやしめていうことば。図豎子。図老い。老い。

あおのく【仰のく・仰く】あおむけになる。図うつぶす。

あおのり【青海苔】緑色の細長い海藻。食用。

あおば【青葉】青々とした若葉。図新緑。

あおばえ【青蠅・蒼蠅】①青黒い大型のはえ。②うるさくつきまとう人をのしることば。

あおひよう【青票】↓せいひよう(青票)。

あおひようたん【青瓢箪】やせて青い顔色の人。

あおまめ【青豆】①グリーンピース。②青大豆。

あおむく【仰向く】上を向く。図俯。図「蛤」。

あおむし【青虫】ちようなどの幼虫で緑色のもの。図螟。

あおも【青物】①野菜類。図青果。②さば・かつおなど体の色の青い魚。

あおやぎ【青柳】①新緑のやなぎ。②ばか貝のむきみ。

あおり【煽り】①風でゆれること。②余勢。余波。

あおる【呷る】ぐつと一息に飲む。

あおる【煽る】①風をおこす。②扇動する。図挑発。

あか【赤】①三原色の一つ。血のような色。②危険信号。図青。③共産主義者。④あかんぼう。

―の他人 全く関係のない人。

あか【垢】①皮膚のよごれ。図汚垢。②水あか。湯あか。

あか【塗】船底にたまった水。「―をかく」

あか【銅】あかがね。

あか【開伽】ほとけにそなえる水。「―棚」

あかい羽根【あかい羽根】共同募金に寄付したしるしの羽根。

あかがい【赤鯉】アカエイ科の、うちわ形の海魚。食用。

あかがい【赤貝】フネガイ科の、赤い肉の二枚貝。食用。

あかがし【赤檉】フナ科の常緑高木。材が赤みをおび

あかがね【銅】どう(銅)。あか。「ている」。

あがき【足掻き】あがくこと。

―が取れない 動作が自由にできない。

あがく【足掻く】①馬などが前足で地面をかく。②じたばたする。もがく。「激痛に」

あかこ【赤子】生まれたばかりの子ども。図嬰兒。乳児。赤子。

―の手をひねる ①力のないものを、苦しめる。②たいそうたやすいことのとえ。

あかざ【藜】アカザ科の一年生の野草。若葉は食用。

あかし【灯】ともしび。図灯火。灯明。

あかし【証】しように。図証明。

あかし【明石】「あかしちちみ」の略。夏に着る、ちぢみの絹織物。

あかし【赤字】収入より支出の多いこと。図欠損。

―公債 国家の予算のおきないに出す公債。

―線 バスや鉄道の、欠損つづきの路線。

アカシア(acacia) ①マメ科アカシア属の樹木の総称。

②「針槐はりけい」の俗称。街路樹にする。

あかしお【赤潮】プランクトンが異常に発生して、海面が帯状に赤くなる現象。

あかしんこう【赤信号】①停止の信号。②危険を示す警告や注意。

あかしんぶん【赤新聞】興味本位の低級な新聞。

あかす【証す】証明する。「身の潔白を―」

あかす【明かす】①あきらかにする。②うちあける。③夜をすてて朝をむかえる。類通曉きょう・徹夜てつや。

あかだま【赤玉】①赤い玉。②佐渡産の赤石。庭石用。

あかチン【赤チン】マキエクロームの俗称。

あかつき【暁】①夜明け。類弘暁きやう・未明みめい・黎明れいめい。②物事が実現・成就じゆうしたその時。「当選の―」

あかつち【赤土】赤茶色の粘土。類埴はに・赭土しやど。岡黒土おかぐろつち。「の総称」。

アカデミー【academy】大学・研究所など研究機関
アカデミック【academic】①学問的。②官学的。

③実的でないようす。

あかでんしゃ【赤電車】「目じるしに赤い電灯をつけるから」終電車の俗称。

あかでんわ【赤電話】赤色の公衆電話。

あかとんぼ【赤蜻蛉】からだの赤いとんぼの総称。

あがなう【贖う】①罪のつぐないをする。類贖罪どくざい・弁償べんしょう。②金品を出してうめあわせをする。類賠償ばいしょう・弁償べんしょう。
あかぬけ【垢抜け】やばったところがぬけ、粹いきになる

こと。類小粋せうすい・瀟洒しょうさ・洗練せんれん。

あかね【茜】①アカネ科の多年生つる草。根から染料をとる。②あかね色。暗赤色。

あかはじ【赤恥】人前でかくひどい恥。類恥辱ちじよく。
あかはた【赤旗】①危険を示す赤い旗。②共産党・労働組合の旗。

あかはだ【赤肌・赤膚】①赤くすりむけた皮膚。②木や草のない山肌。

あかはだか【赤裸】まるはだか。類赤裸せきばく・全裸ぜんばく。
あかはら【赤腹】①腹の赤いツグミ科の小鳥。②うぐい。③いもり。

あかびかり【垢光り】衣類などがあかで黒く光ること。
あかふだ【赤札】安売りの商品や売約済みの商品などにつける赤い札。

アガベ【agave】キリスト教で、人間に対する神のあかぼう【赤帽】駅で手荷物を運ぶ人。
あかほし【明星】あけの明星めいよう。類金星きんせい。類宵よいの明星めいよう。「石」。

あかまいし【赤間石】山口県産のあずき色のすずり
あかまつ【赤松】樹皮の赤い松。類黒松くろまつ。

あかみ【赤身】①魚や獣の肉の赤いところ。類白身しろみ。
②材木の中心の赤い部分。心材。類白太しろた。

あかむけ【赤剥け】皮が赤くすりむけること。
あかめがしわ【赤芽柏】トウダイグサ科の、若芽が美しい紅色の落葉高木。

あがめる【崇める】うやまう。類崇敬けいけい・尊崇そうじゆん。
あがもの【贖物】①罪のつぐないとしてそなえるもの。②

身の災難をはらうためにさしたす金品。

あかもん【赤門】①朱ぬりの門。②「朱ぬりの門があるところから」東京大学の俗称。

あからがら【赤ら顔】赤みがかった顔。類赭顔せがん。
あからさま ありのまま。むきだし。類明白めいはく・露骨ろこつ。

あかり【明かり】①ともしび。類灯火てんか。②光線。
あがり【上がり】①あがること。のぼること。類下さがり。

②出身。「役人―」③みいり。収入。④すぐろくの最終。⑤お茶。⑥勤務を終わること。

あがりかまち【上がり框】家のあがり口の横木。
あかりとり【明かり取り】①外の光の取り入れぐあい。

②外の光を取り入れるための窓。明かり窓。
あがりばな【上がり花】せんじたばかりの茶。あがり。

あがりばな【上がり端】土間から座敷へあがる所。
あがりもの【上がり物】①おそなえ物。②収穫物。③収入。④召しあがり物。

あがりゆ【上がり湯】湯舟ゆふねとは別になった、ふろからあがるときに使う湯。おか湯。

あがる【上がる】①下から上に移る。類下さがる。②ふろから出る。③家の中にはいる。④入学する。⑤のぼる。⑥隆起する。⑦昇進する。⑧騰貴する。⑨速力などが加わる。⑩上達する。⑪効果が目立ってくる。⑫雨がやむ。⑬すぐろくで最後のところに達する。⑭勤務を終了する。

あがる【挙がる】犯人がつかまる。検挙される。
あがる【揚がる】①空中に高く出る。「花火が―」②

どつと発せられる。「歓声が―」③あげものが、できあが

る。「てんぷらが」

あがる【騰がる】値が高くなる。類騰貴とうき・上騰じやうとう。

あかるい【明るい】①光線が強い。因暗くらい。②ほが

らかである。③物事によく通じている。因暗くらい。④疑

わしい点がない。因暗くらい。

あかるみ【明るみ】①明るい所。②表だった所。おおよ

け。「―に出す」

あかんたい【亜寒帯】寒帯と温帯の中間地帯。

あかんぼう【赤ん坊】生まれてまもない子ども。類嬰兒えい・乳児にゅう。

あかんぼう【亜灌木】↓あていぼう(亜低木)。

あき【秋】四季の一つ。夏と冬の間の季節で、立秋か

ら立冬の前日まで。

―の空そら ①秋晴れの空。②かわりやすい秋の空もよ

う。③人の心がかわりやすいこと。「男心おとこころと―」

―の七草ななぐさ はぎ・おばな・くす・なでしこ・おみなえし・

ふじばかま・ききょうの七種の秋の代表的な草花。因

春はるの七草ななぐさ。

―の日はつるべ(釣瓶)落おとし 秋の日があつと

いう間に暮れることのとえ。

あき【空き】①あいていること。②欠員。③ひま。

あき【飽き・厭き】あきること。いやげがさすこと。

あきうど【商人】↓あきんど(商人)。

あきおち【秋落ち】①秋になって予想よりも少ない収穫

となること。②豊作のために、秋に米価が下がること。

因秋高あきだか。

あきかせ【秋風】①秋の風。すずかせ。類金風きんふう・商

風ふう。②男女の愛情がさめること。

あきぐち【秋口】秋のはじめ。類初秋しよしゆ。

あきさめ【秋雨】秋の長雨。類秋霖しゆりん。因春雨しゆはる。

あきしょう【飽き性・厭き性】あきっぽい性質。

あきす【空き巣】①使わなくなった鳥の巣。②人のいな

い家。③「空き巣ねらい」の略。るすの家をねらうとるぼ

あきたいぬ【秋田犬】大型の日本犬。

あきち【空き地】建物のない、あいている地所。使つて

いない地面。類空地くうち・更地さらち。

あきつしま(ね)【秋津島(根)】「日本」の古名。類

大八州おほやしま・豊葦原中国とよあしはらのなかつくに・瑞穂国みずほのくに。

あきと【鰯・鰯】①あで。②魚のえら。

あきない【商い】商売。売上高。

あきないぐち【商い口】①商売のための口じようすな

話。②商品の売り込み先。類顧客層こきゃくそう・得意先

とくい・最優先さいひきき。

あきなう【商う】商売する。商品を売り買いする。

あきばれ【秋晴れ】晴れわたった秋空。

あきびより【秋日和】秋の、よく晴れた天気。

あきま【空き間】①すきま。類空隙くうき。②空室。

あきや【空き家】人の住んでいない家。

あきらか【明らか】はっきりしているようす。類明白めいはく。

あきらめる【諦める】だめだと思いきる。「進学を―」

類観念かんねん・断念だんねん。

あきる【飽きる・厭きる】満ちたりて、いやになる。

アキレスけん【アキレス腱】〈Achilles〉①かかとの骨

と筋肉とを結ぶ筋。②強者が持つ唯一の弱点。

あきれる【呆れる・惘れる】あつけにとられる。あいそをつ

かす。類啞然あぜん・呆然ばうぜん。

あきんど【商人】商売人。あきうど。類商賈しやうぎやう。

あく【悪】①わるいこと。因善ぜん。②芝居でかたき役。

悪役あくやく。

あく【灰汁】①わらや木の灰の上ずみ液。②いがらっぽ

い味。③しつこい個性。「―の強い人」

アクアラング〈aqualung〉水中呼吸器。商標名。

あくい【悪意】①いじわるな気持ち。類邪心じしん。因好

意い。②わるい意味。「―に取る」因善意ぜんい。

あくいんあつか【悪因悪果】わるいおこないに対して

は、わるいむくいがあること。因善因善果ぜんいん。

あくうん【悪運】①まわりあわせのよくないこと。類数奇

さう・逆運さくうん・不運ふうん。②わるいことをしているのに、そ

の報いを受けずにいること。「―が強い」

あくえき【悪疫】たちのわるい伝染病。

あくえん【悪縁】わるいつながり。くされえん。

あくか【悪貨】↓あつか(悪貨)。

あくがた【悪形】歌舞伎かぶきのかたき役。また、それを演

じる役者。類悪役あくやく・敵役かたきやく。

あくかん【悪漢】↓あつかん(悪漢)。

あくかんじよう【悪感情】不愉快な気持ち。悪意。

因好感こうかん。

あくぎやく【悪逆】人道にそむく、わるいおこない。「―

無道」類惡辣あくらつ・凶惡きやうあく・極惡ごくあく。

あくぎよう【悪行】人の道にそむく行為。類惡事あくじ・

非行ひかう・不義ふぎ。因善行ぜんかう。

あくごう【悪業】前世のわるいおこない。因善業ぜんごう。
 あくさい【悪才】悪事をする才能。「一にたける」
 あくさい【悪妻】気だてのよくない妻。因良妻りょうさい。
 あくじ【悪事】①わるいおこない。因悪行あくぎょう・非行ひぎょう。
 ②わざわい。

一千里せんりを走はる わるいことをすると、すぐ世間に
 あくじき【悪食】①人がふつう食べないようなかわった
 物を食べる。いかものぐい。②粗食。

あくしつ【悪疾】たちのわるい病氣。
 あくしつ【悪質】①たちがよくないこと。②質が悪いこ
 と。因粗悪そあく・悪性あくせい。因良質りょうしつ。

アクシデント〈accident〉事故。

あくしゅ【悪趣】仏教で、現世で悪いことをした者が死
 後に陥る苦悩の世界。地獄・餓鬼・畜生が三悪趣。
 因惡道あくどう。

あくしゅ【握手】①手をにぎりあうこと。②仲なおり。
 あくしゅう【悪臭】いやなおい。「鼻をつく」因異
 臭いしゅう・汚臭しゅう・腐臭しゅう。

あくしゅう【悪習】わるい習慣。「一に染まる」因惡
 風あくふう・惡癖あくへき・惡癖あくへき・陋習ろうしゅう。

あくしゅみ【悪趣味】下品な趣味。因野卑やひ。
 あくしゅんかん【悪循環】一つのことかわるい結果を生
 み、それがまたものことに悪影響を及ぼすような過程。

あくしよ【悪所】①けわしい場所。因險阻けんそ・峻險
けん・難所なんしよ。②遊里。「一通い」

あくしよ【悪書】ためにならない本。因良書りょうしよ。
 あくじよ【悪女】①みにくい女。因醜女しゅうにょ・因美女

じよ。②心のよくない女。因奸婦かんぷ・毒婦どくぷ・妖婦ようぷ。
 アクション〈action〉①動作。②演技。立ちまわり。
 あくしん【悪心】わるいこころ。因惡念あくねん・奸心かんしん・邪
 心じしん。因善心ぜんしん。

あくせい【悪声】①わるいこえ。因美声めいせい。②わるい
 評判。因惡評あくへい・惡名あくめい。因名聲めいせい。

あくせい【悪性】性質がよくないこと。因惡質あくしつ。
 あくせい【悪政】わるい政治。因暴政ぼうせい。因善政ぜんせい。

あくせく【悪戯】心にゆとりがなく、せわしく物事をする
 よつす。因營營えいえい・汲汲ききき。「付属品」

アクセサリ〈accessory〉①装身具。②機械類の
 アクセル〔accelerator〕自動車の加速装置。

あくせん【悪銭】不正な手段で得た金銭。
 一身に付かず 不正な手段で得た金銭はわけもな
 く、むだに使ってしまう。

あくせんくとう【悪戦苦闘】①強敵を相手に苦しい
 戦いをする。因苦戦くせん・難戦なんせん。②死にものぐるい
 の努力。

アクセント〈accent〉①発音の際、一つの単語の音
 節間に見られる高低・強弱の関係。②デザインなどの
 強調部。「えりに一をつける」

あくそう【悪相】人相がわるいこと。因吉相きさう。
 あくそう【悪僧】①わるいことをする僧。因破戒僧はかいそう。
 ②武芸にすぐれた僧。因荒法師こうほうし。

あくた【芥】ちり。こみ。因塵芥じんがい。
 あくたい【悪態】悪口。にくまれ口。「一をつく」因惡

罵ののし・雜言ざごん。

あくだま【悪玉】悪人。因善玉ぜんだま。

あくたれ【悪たれ】①わんぱくもの。②ひどいたすら。
 一口く 反抗的で乱暴な物言い。にくまれ口。「一
 をたたく」因惡態あくたい。

アクティブ〈active〉①活動的。能動的。因パッシ
 ブ。②労働運動などの活動家。

あくどい ときつい。しつこい。「やり方」
 あくとう【悪党】わるもの。因惡人あくにん・惡漢あくかん。

あくどう【悪童】いたずらっこ。因惡太郎あくたろう。
 あくとく【悪徳】人の道にそむく行為。因美德めいとく。

あくにん【悪人】わるもの。因惡玉あくだま・惡党あくどう・惡漢
あくかん。因善人ぜんにん。

あくぬき【灰汁抜き】野菜などのしづみを取る。こと。
 あぐねる しつづけていやになる。あぐむ。「待ち」

あくば【悪罵】口きたなくのしること。因惡態あくたい・惡
 口あくこう・痛罵いたば・罵倒ばとう。

あくび【欠・欠伸】疲労・退屈のため自然に出る、口を
 大きく開いてする呼吸運動。「筆ひょう」

あくひつ【悪筆】へたな字。因乱筆らんぴつ。因達筆たつぴつ・能
 あくひょう【悪評】わるい評判。因惡声あくせい・惡名あくめい。

不評ふへい。因好評こうへい。
 あくふう【悪風】わるい習慣。因惡習あくしゅう・惡癖あくへき。

悪癖あくへき。因美風めいふう・良風りょうふう。
 あくぶん【悪文】へたな文章。因拙文せつぶん・駄文だぶん。因

達文たつぶん・美文めいぶん・名文めいぶん。
 あくへい【悪弊】わるい風習。因惡習あくしゅう・惡風あくふう。

あくへき【悪癖】よくないくせ。因惡習あくしゅう。